

居住支援事業 支援好事例

場所	POPOLOハウス		
性別	女性	年齢	30代
支援期間	4か月		
特徴・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・家族と一緒に生活をしていましたが、虐待を受ける可能性があるため、ビジネスホテル等で生活していた。 ・貯金が底をついてきたため、自立相談支援センター経由でPOPOLOハウス（女性用共同生活の施設）へ入居となった。 ・派遣会社を辞めた後、保険証の発行手続きをしておらず、無保険の状態である。 ・清掃の仕事をしている。 		
支援メニュー	<p>①居住支援事業（シェルター事業）：一時的な住居と食事を提供し、自立をサポートする</p> <p>②就労支援</p> <p>③伴走支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国民健康保険の発行手続きをすすめる。 ・他の仕事への転職、またはダブルワークを検討する。 ・住まいの確保のため、居住支援法人への依頼を検討する。 		
支援内容 およびその結果	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃の仕事に加えて、夜間での郵便局での仕事をはじめ、安定した収入が見込めるようになった。 ・毎月POPOLOに給料の一部を預け、約3か月で14万円を貯めることができた。 ・退職した派遣会社から脱退証明書を手し、国民健康保険の発行手続きをすすめた。 ・居住支援法人に依頼し、市内でアパートを確保することができた。 		
取組ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らしの経験はなかったが、本人の自立したいという意思をもとに各課題に取り組むことができた。 ・ダブルワークによる収入増加や、国民健康保険証の発行手続きは本人にとって初めてのことであったが、すべてが本人の自信につながっている。 		